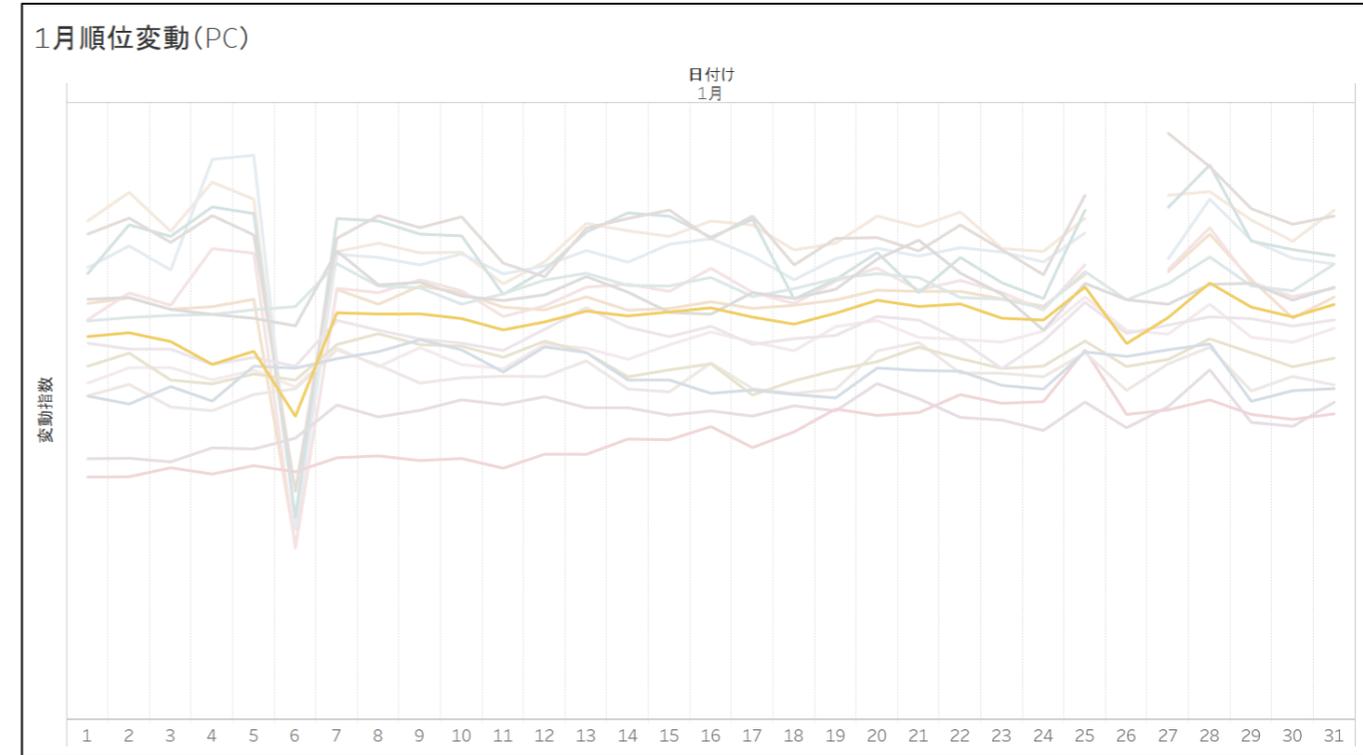
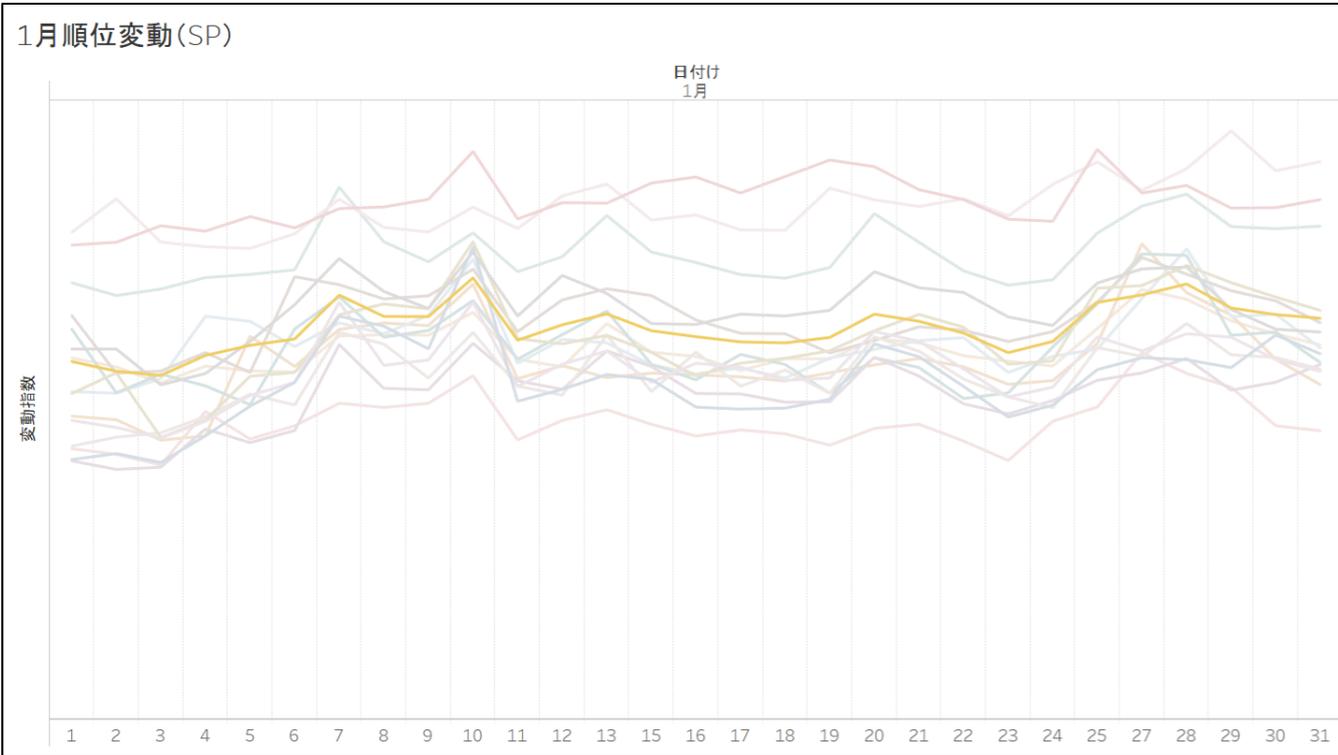


SEO

NEWS
REPORT

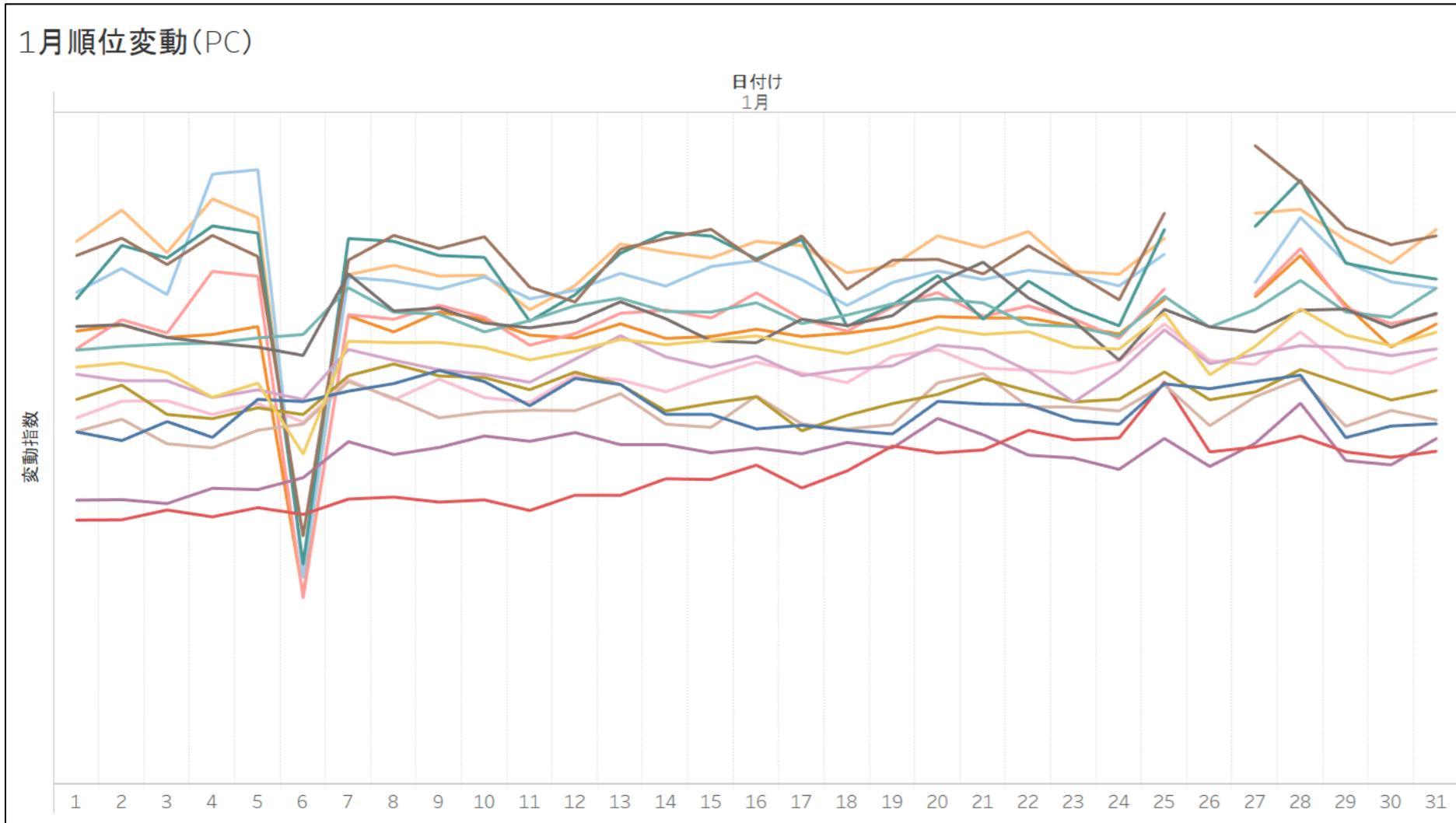
2019年1月

ALGORITHM REPORT



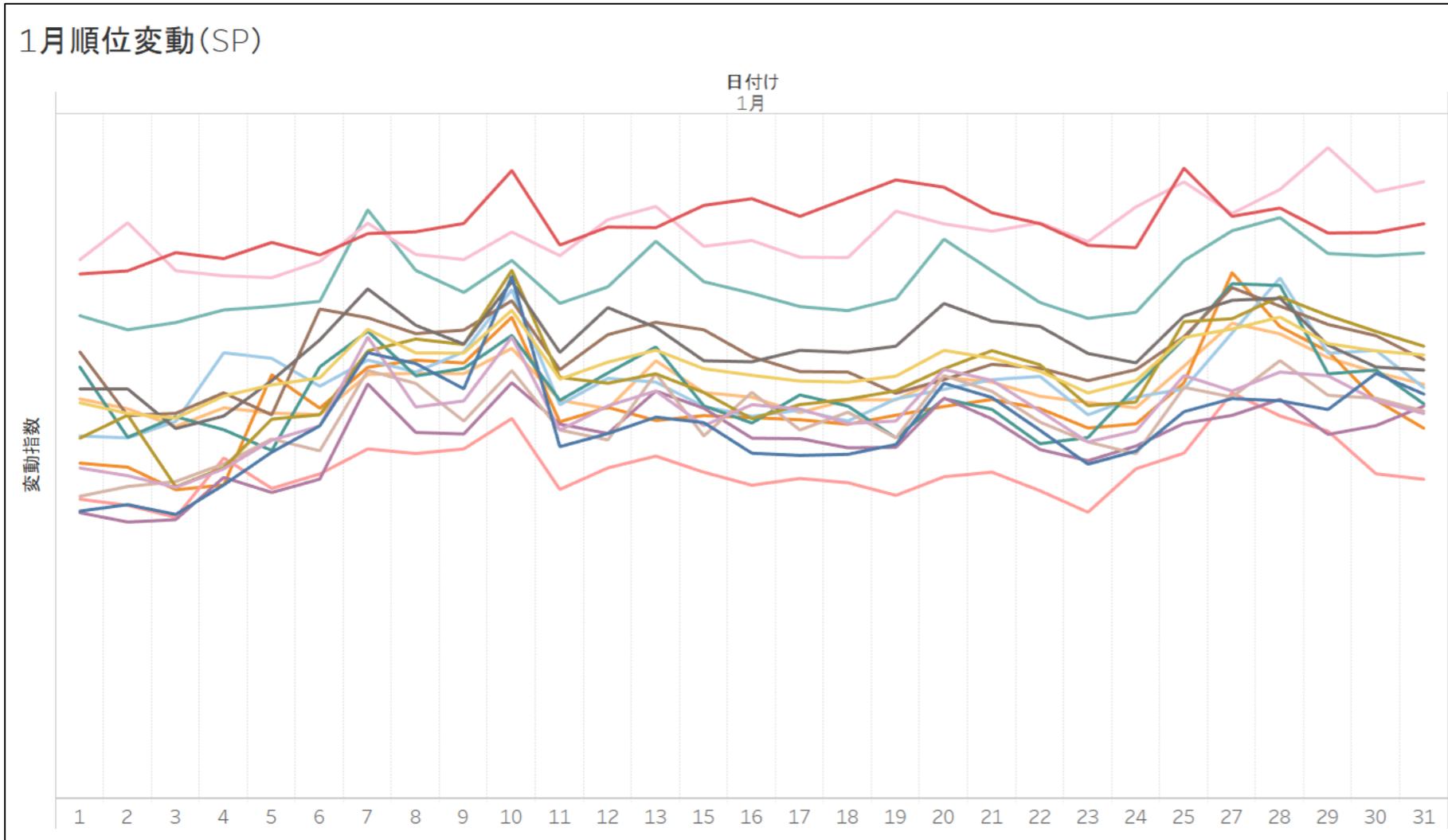
表の説明

- ・ 変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくら順位変動したのかを表す
- ・ 黄色の実線：計測キーワードすべての順位変動の平均



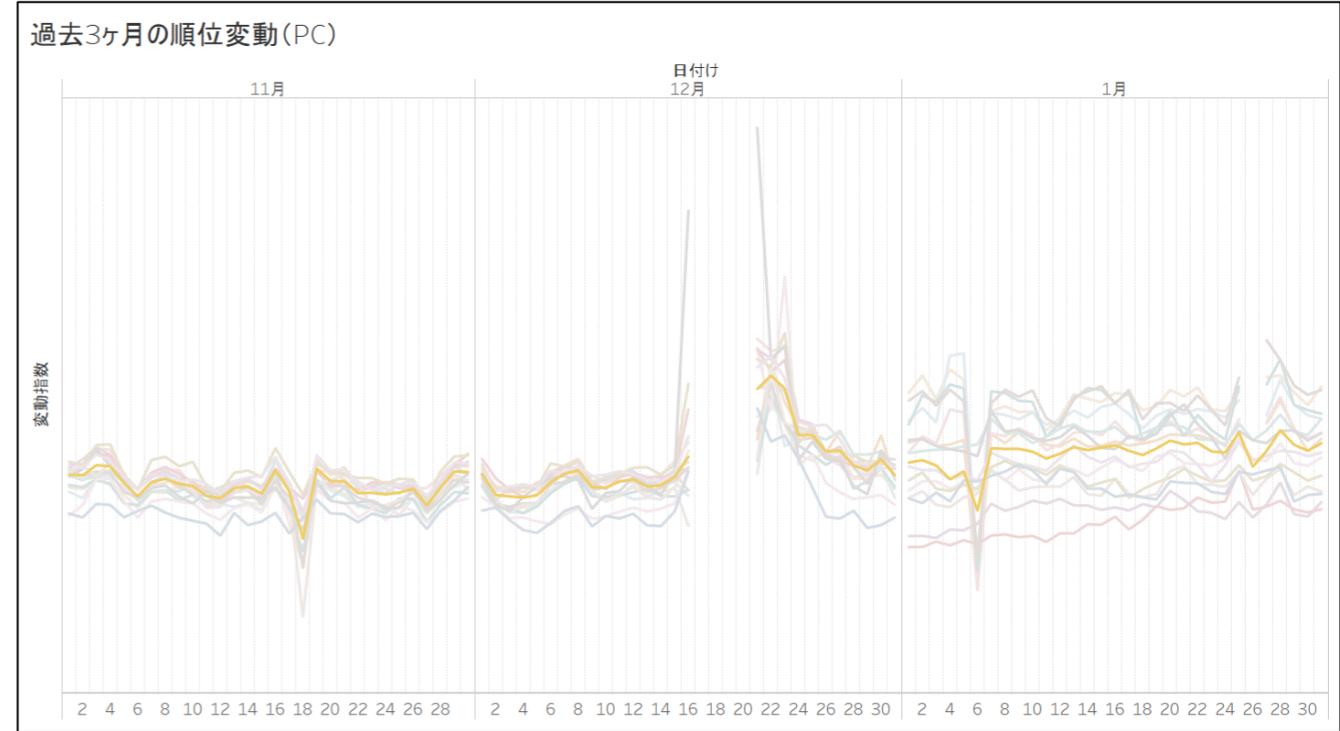
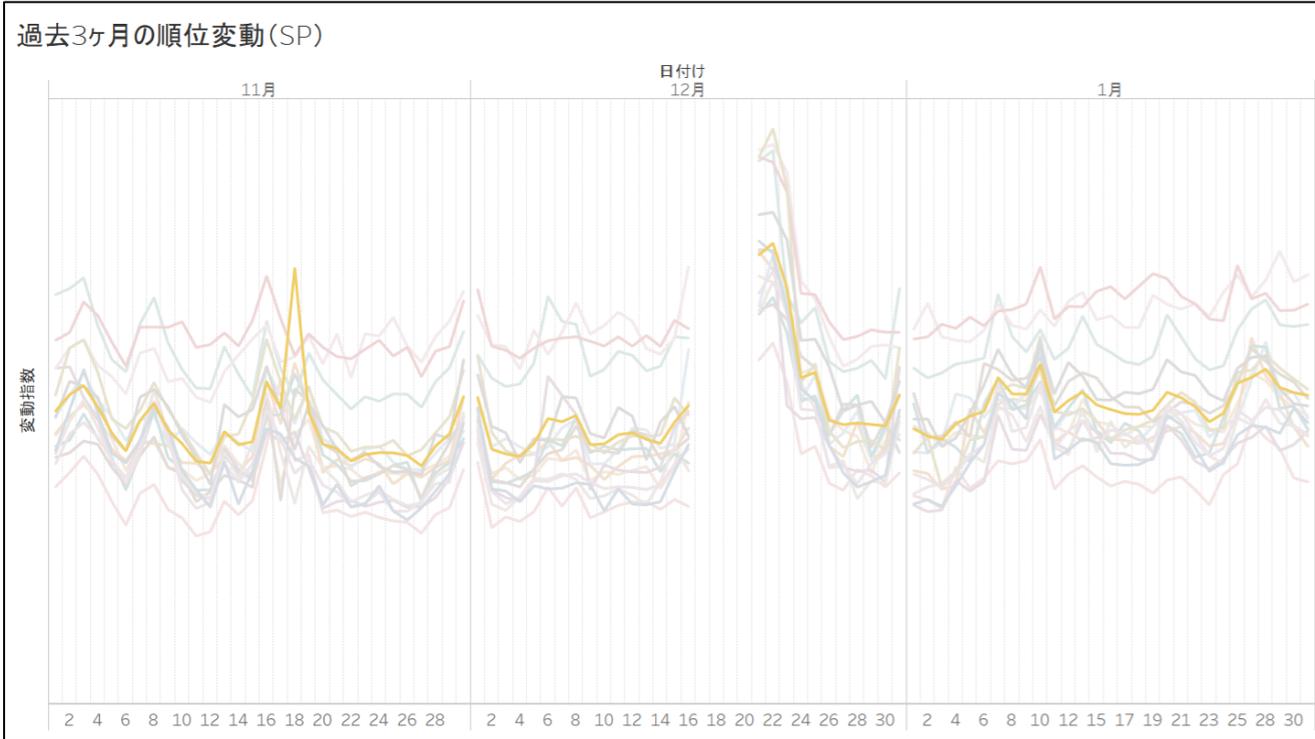
表の説明

- ・ 変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくらか順位変動したのかを表す



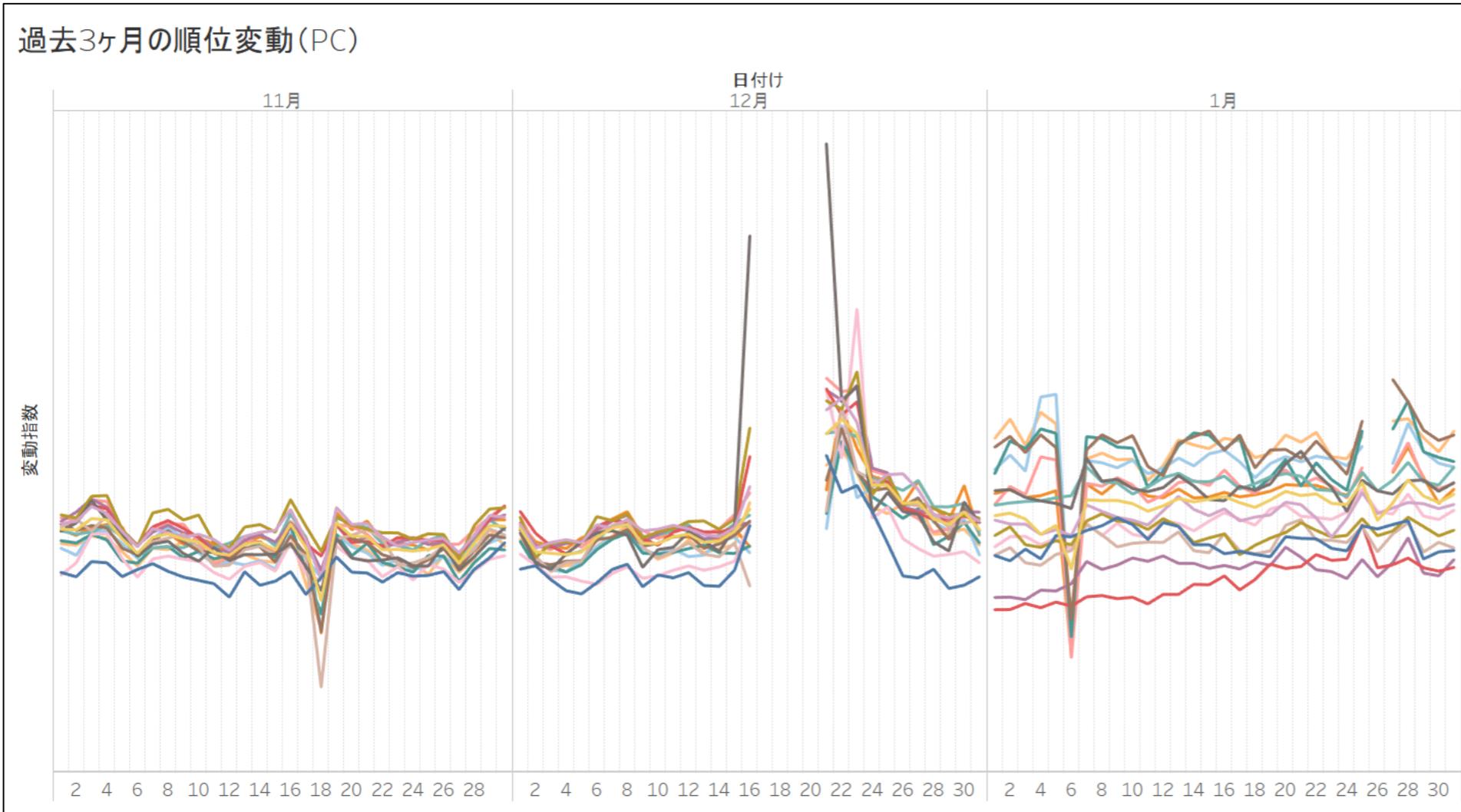
表の説明

・変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくら順位変動したのかを表す



表の説明

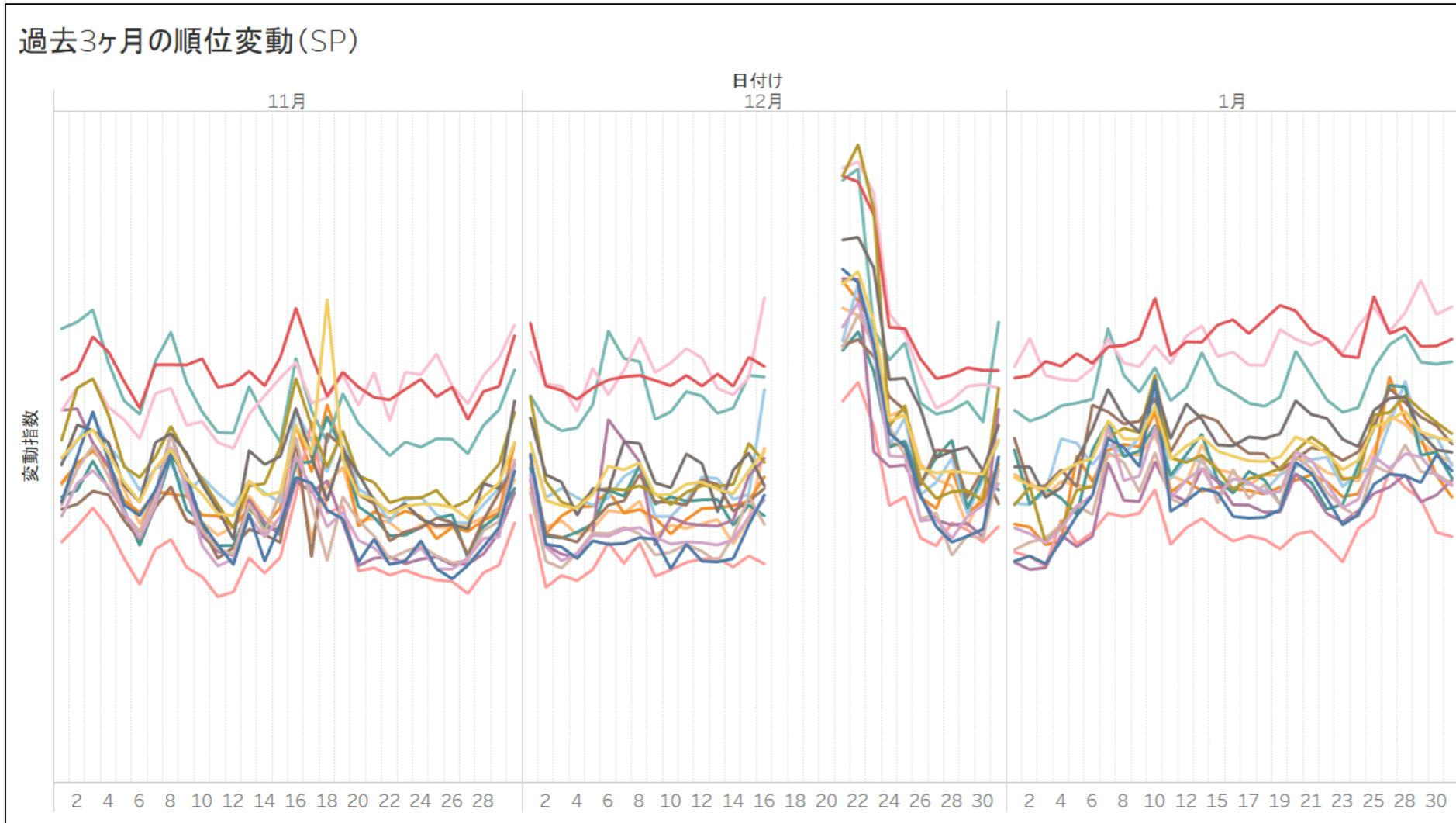
- ・ 変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくら順位変動したのかを表す
- ・ 黄色の実線：計測キーワードすべての順位変動の平均



各業界	
■	合計
■	FX
■	クレジットカード
■	株式投資
■	仮想通貨
■	保険
■	不動産売買
■	着物
■	ファッションEC
■	医療・健康
■	美容
■	国内旅行
■	海外旅行
■	転職
■	転職エージェント
■	バイト

表の説明

- ・ 変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくら順位変動したのかを表す



- 各業界
- 合計
 - FX
 - クレジットカード
 - 株式投資
 - 仮想通貨
 - 保険
 - 不動産売買
 - 着物
 - ファッションEC
 - 医療・健康
 - 美容
 - 国内旅行
 - 海外旅行
 - 転職
 - 転職エージェント
 - バイト

表の説明

・変動指数：検索上位ページが前日に比べて当日がいくら順位変動したのかを表す

SEO NEWS

概要

1月23日に日本でも「Google しごとと検索」が導入されました。ちなみに海外では「Google for Jobs」と呼ばれていました。

右の写真のような形で検索結果の表示され、デスクトップ版、モバイル版の両方で表示されます。

まとめ

求人サイトだけでなく、自社サイトの求人ページもマークアップできるのは嬉しい限りです。ぜひ試してみてください。

一方で、ルールがしっかりと定められており、それらを違反してしまうと、ペナルティの対象となるので、実装前に必ず公式ページを確認しましょう。

例えば、期限切れの求人を放置するとペナルティの対象となります。

▼Google しごとと検索の告知



概要

1月7日にGoogleは公式ブログで、「今月中にGoogleアシスタントを搭載したデバイスが全世界で10億台を突破する」と発表しました。

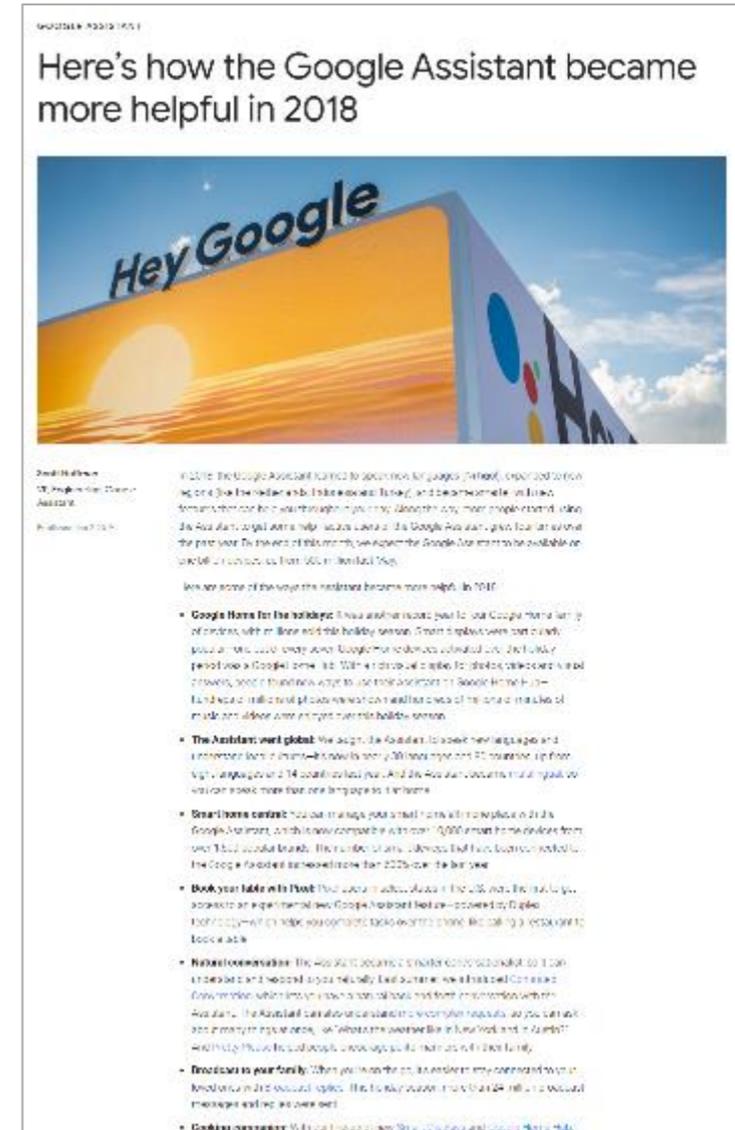
2018年5月の段階では搭載数が約5億台であったことを考えると、驚異的な伸びであるといえます。

まとめ

音声検索はまだまだ主流ではありませんが、この伸び率を見ると、近い将来音声検索が通常の検索を上回る日が来るかもしれません。

さて、対応が難しい音声検索ですが、検索する際は「近くの美味しいお店探して」のような口語調の検索キーワードになる傾向が強く、そうした口語調にtitleをチューニングすることや、端的に説明をまとめる事で、Googleアシスタントが読み上げる可能性が高まりそうです。

▼Googleはアシスタントに新規追加された機能を強調



概要

1月17日(日本では2月1日)にGoogleは公式ブログで、「Google ニュースでより成果を上げるためのアドバイス」を発表しました。

かなり詳細にアドバイスを掲載しており、ニュースメディアを運営している人は必見の内容となっています。

<https://webmaster-ja.googleblog.com/2019/02/ways-to-succeed-in-google-news.html>

まとめ

大きく分けるとアドバイスは「見出しと日付」、「重複するコンテンツ」、「透明性」の3つに分けられています。

特に、「重複するコンテンツ」は自分が発信元のメディアであるにもかかわらず、複製、無断転用などにより他のメディアが評価されてしまう。といったことを防げるため、確実におさえましょう。

▼Google公式ブログ



ブログ内では、Googleニュースで成果を上げるための一般的なアドバイス（見出しと日付の設定・重複コンテンツ対策・透明性の保持 etc）について紹介しています。

概要

Googleはアメリカ版のモバイル検索とアプリにおいて、アクティビティカードを導入しました。

アクティビティカードは、過去の検索における履歴を基に、同様の検索をした際に以前訪れたサイトを一覧にしてユーザーに表示する機能です。

この機能により、ユーザーは一旦やめた検索を簡単に継続できるようになります。

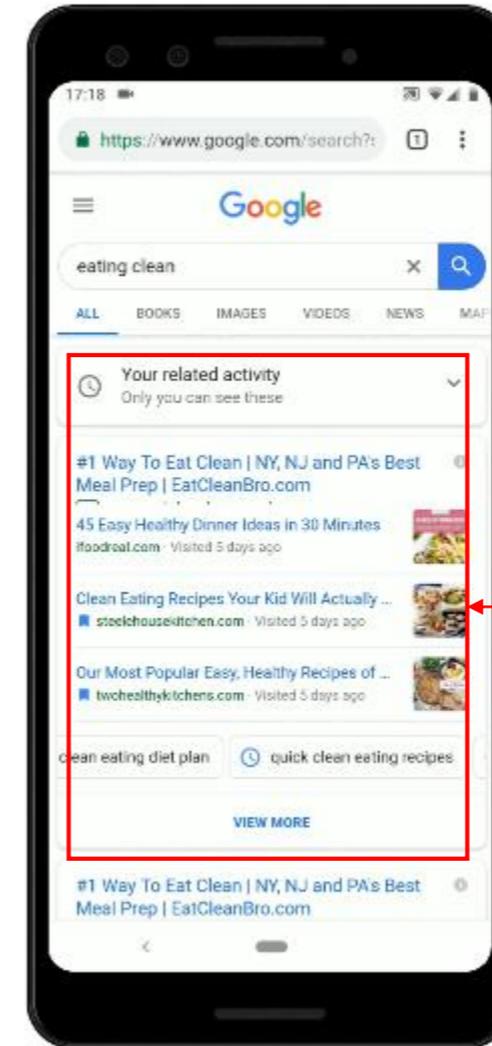
今の所、導入はアメリカのみで、日本での導入は未定です。

まとめ

アクティビティカードによって、有益なコンテンツへのリピートが増えることが予想されます。

具体的な対策などは特にないため、引き続きコンテンツの質を高めましょう。

▼アクティビティカードの導入例



ユーザーが過去に同様の検索し、訪問したサイトを表示している。

引用元
<https://www.searchenginejournal.com/google-lets-users-continue-previous-searches-with-new-activity-cards/285779/>

概要

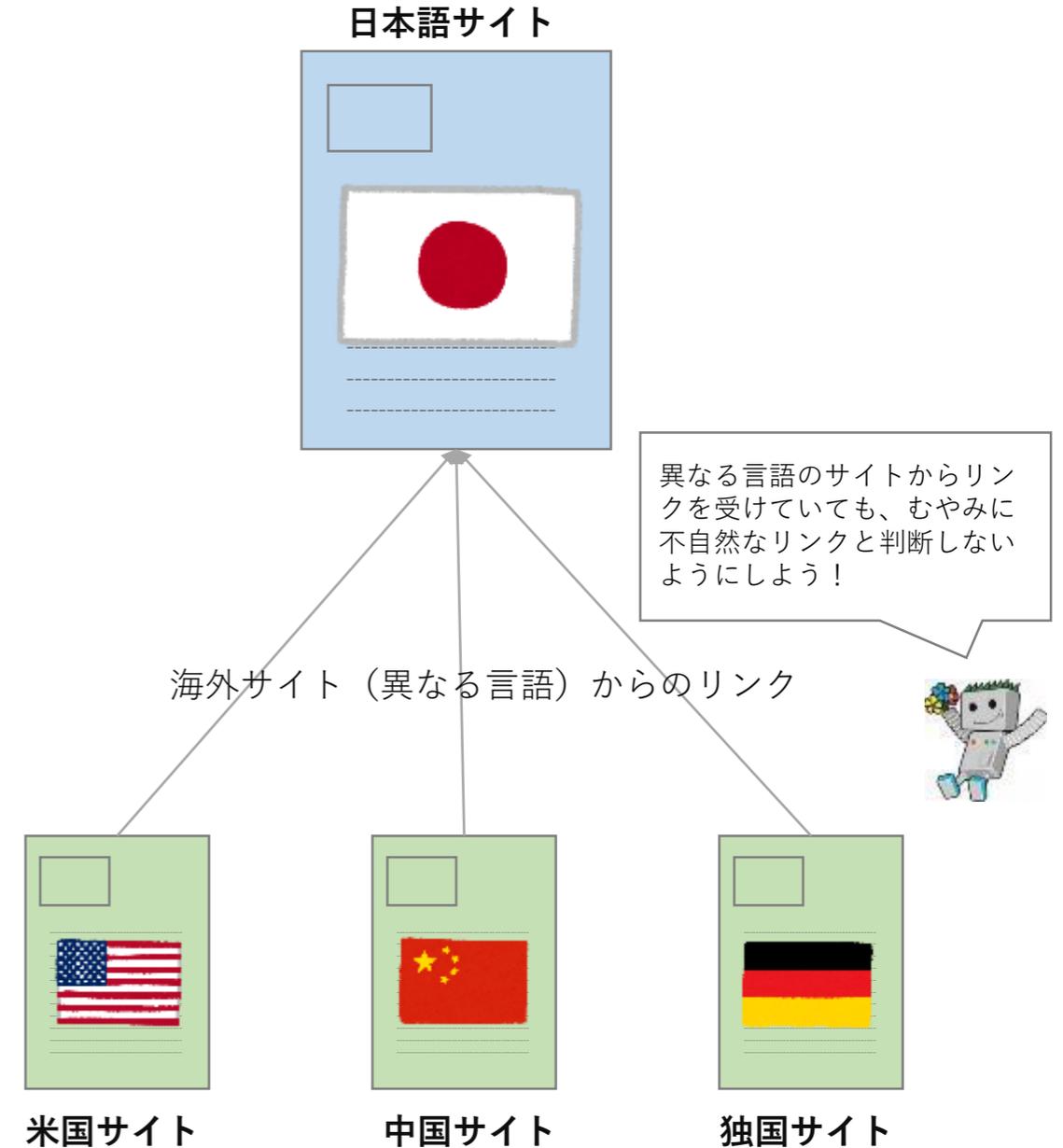
GoogleのJohn Mueller氏はTwitter上で、

「自分のサイトで使用していない言語のサイトからのリンクを不自然に思う必要はない」といった旨の発言をしました。

日本語のサイトを運用していて、英語のサイトからのリンクが貼られていたとしても、不自然に思う必要はないということです。

まとめ

日本においてはあまり、他の言語からのリンクが張られることはありませんが、リンクの精査をする際には、単に日本語でないからと否認するのはやめて、リンク元のサイトを把握した上で否認するかどうか考えましょう。



概要

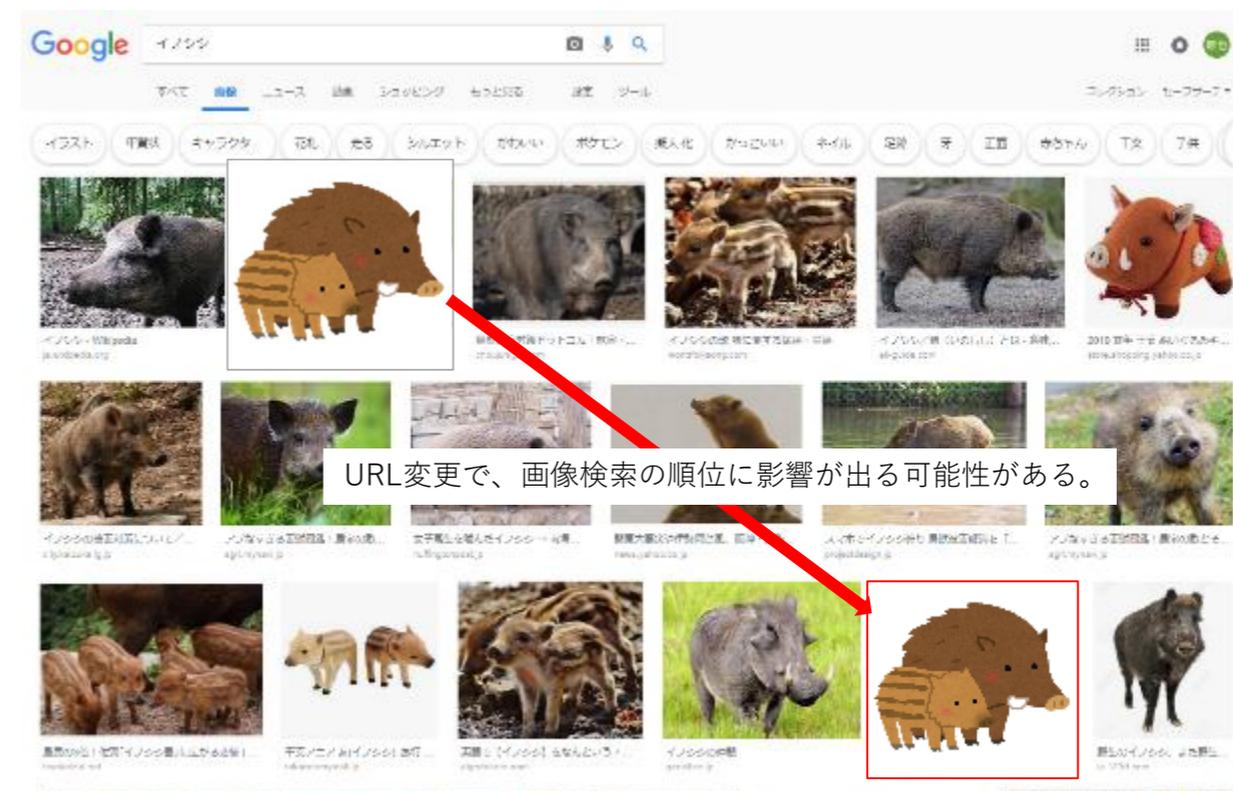
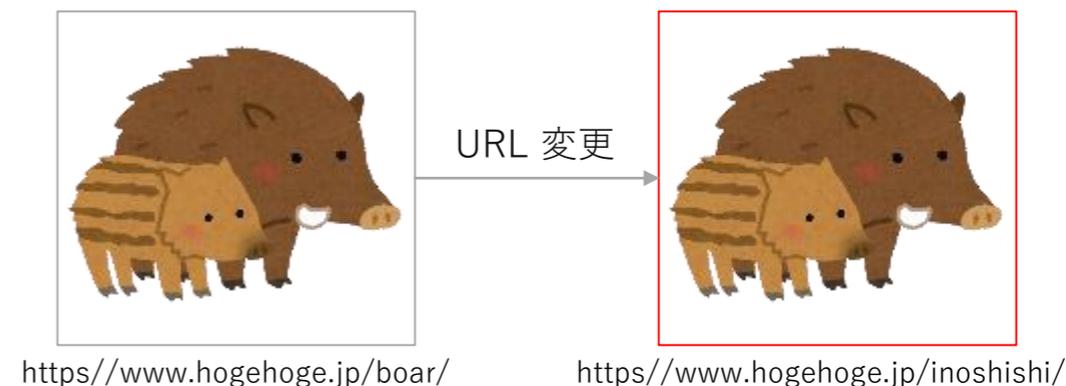
GoogleのJohn Mueller氏はハングアウト上で、「画像のURLを変更すると、画像の検索結果の順位に影響が出る」といった旨の発言をしました。

URLを変更してしまうと、検索エンジンはその画像を以前とは異なる画像と判断するため、再びインデックスされるまでに時間がかかります。

まとめ

特に画像検索からの流入が多いサイトは気をつけたいですね。URLを変更する前にその画像からの流入数はおさえるべきです。

どうしても変更しなくてはいけないときは、301リダイレクトを用いるのが最善です。



概要

GoogleのJohn Mueller氏はハングアウト上で、「モバイルユーザビリティとモバイルファーストインデックスには関係がない」といった旨の発言をしました。

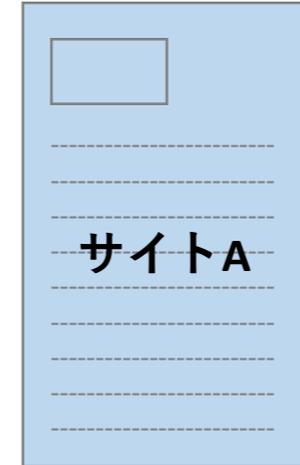
これはモバイルユーザビリティテストで問題があったとしても、そのサイトはMFIの対象となることがあるということを意味しています。

まとめ

レスポンシブウェブデザインでのサイト構築を念頭に、スマホなどのモバイル端末での閲覧を意識していれば、基本的にはMFIは問題ありません。

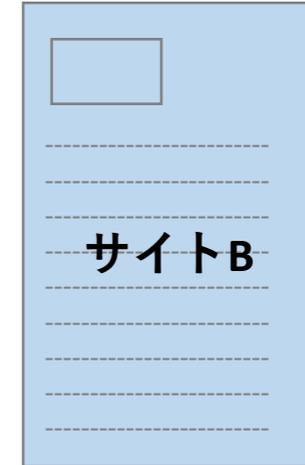
もし、PCとモバイルを別のURLで運用している場合は、コンテンツだけでなく、画像のaltタグや、構造化データも差を生まないことを意識してください。

モバイルユーザビリティ
問題あり



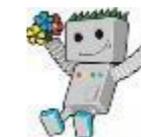
サイトA

モバイルユーザビリティ
問題なし



サイトB

サイトABの両方がMFI（モバイルファーストインデックス）の対象となる。



モバイルユーザビリティとMFIには関係性はありません。これを機会に、2つの違いについて復習しておこう！

概要

GoogleのJohn Mueller氏はTwitter上で、

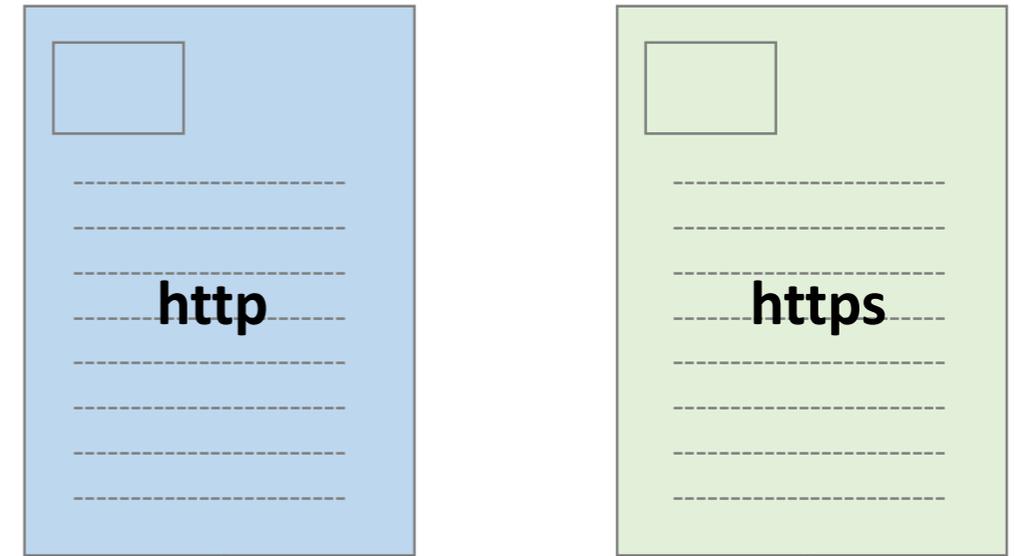
「HTTPSはインデックスするかしないかに影響しない。我々はHTTPSを軽度のランキング要因としては使っている」といった旨の発言をしました。

つまりは、HTTPのままでもインデックス自体はされますが、順位は若干つきにくいということになります。

まとめ

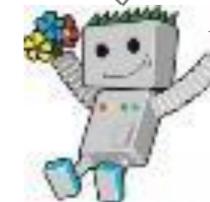
ランキング要因とはありますが、HTTPのままのサイトが、HTTPSのサイトより上に表示されることもあり、ランキング要因としてはあまり大きくないのかもしれませんが。

一方でユーザー視点で考えると、HTTPS化されていないサイトに対し不信感を抱き、アクセスしないことや直帰してしまうこともあるため、もしされていない方がいましたら、早急に対応しましょう。



インデックスするが、
順位が若干つきづらい。

インデックスする。
順位のつき方も通常通り。



httpのページでも問題なくインデックスします。ただ、httpsをランキング要素にしているので、移行することをお勧めします！